

(七) オノ原(さいのはら)

西林木町の伊努谷川源流地点北方の地帯を言います。

昔、時代ははっきりしませんが、この地に「塞の神」(道祖神)があつたことにより、「オノ原」と名付けられたと言われています。

道祖神は塞の神(さいのかみ)とも言い、一般に村の外れにあつて外部から村に悪い霊が侵入するのを防いでいる神様です。

道祖神(どうそじん、どうそしん)は、路傍の神であります。

集落の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などにおもに石碑や石像の形態で祀られる神で、村の守り神、子孫繁栄、あるいは交通安全の神として信仰されています。

この神は男女神であり、その言われは、男女の仲の良い神様が守つていてくれると、そこを通り抜けようとした霊は「邪魔するな」とばかりに突き飛ばされるからだとされています。

また男女神であるが故に、道祖神はまた安産と子供の守り神ともされました。

ここから道祖神と地藏との混合も生じています。

こここの「オノ原」地名の初見は雲陽誌に見られます。

“伊努谷 大谷川あり、此川筋鱒淵寺へ越道あり、川の上に「オノ原」という原北に花田かせん東にあせひらといふ

山頭に七曲とて難所あり・・・略“

この「オノ原の道祖神」は現在「伊努神社」に合祀されています。

